

学位は卒業の要件ではなく、卒業後の数年の研究の後に与えられるようになった。種類は医学博士に統一された。

第Ⅱ期には（ドイツでは第Ⅲ期にまたがって）、軍医学校という特異な医育機関が存在した。これはフランスではナポレオン時代に創立された。オランダでは一八二二年から一八六八年まで、プロシアでは一七九五年から一九一八年まで、オーストリアでは一八一七年から一八七二年まで置かれた。これは大学に先立って中央権力により充分に管理された医学校だった。この学校のカリキュラムはほとんど必修で、時間割が存在し、修学年限も一定、母国語で講義され、要領よく医育が行われ、理論と実地が共に重視された。大学以外の最後の医育機関であった。

第Ⅲ期に創設された日本の医科大学のシステムは、大学のシステムではなく、この軍医学校のシステムに酷似している。また大学教育の受容の歴史からも、それは証明される。詳しくは拙著近刊『江戸のオランダ医』『蘭学の背景』をごらんいただきたい。

1) (三菱水島病院)

2) (ライデン大学医史学)

眼科症候群名に冠した人名辞典の作成

奥沢康正

近年発表される症候群は、その命名の傾向として、人物名を冠する症候群は急速に少なくなり、全身的な主症候を羅列した命名傾向へと変遷している。しかし、人物名を冠して命名された症候群が、非常に多数存在していることも事実である。にもかかわらず、症候群辞典の発刊は、わが国においてはそれほど多くはない。さらに、眼科領域のみを対象とした眼科症候群辞典は、わが国では非常に少なく、かつ、歴史的にも新しい。これらの辞典には、同義語、概要、全身症状、眼所見、原因および治療方については十分に記述されているが、症候群に自らの名前を冠した、疾患の発見者の人物像についてはまったく触れられていない。このような現状を鑑み、今回、症候群辞典（眼科領域に関連する症候群のみを抽出した）および、眼科症候

群辞典をあわせた既刊の一二の辞典から、人物名を冠した六六九症候群について、延べ九〇五名の、人物名を主とする眼科症候群人名辞典の作成を意図して調査を始めた。それぞれの人物の略歴ならびに活躍地、専門分野、提出論文などについて、年代別の推移について考察したい。

(京都府京都市)

John Hunter の歯科医学的業績

に つ いて

本 間 邦 則

John Hunter (1728-93) は外科医としてのみならずその解剖学的業績についても多く知られている。また彼の著作『The Natural History of the Human Teeth (1771)』は、『歯の博物学』は、歯科医学の進歩に大きく貢献した業績として知られている。彼の歯科医学における業績は、兄の Spence 一家が歯科医師であったので、その相談相手となり、研究した結果から得られたものだろうと推定されている。

Hunter の歯科医学的業績として注目すべきものは、埋伏した下顎智歯の歯冠周囲炎の観察と、歯槽膿漏症が歯槽縁からはじまり歯根部にむかって進行する状態を認めたことであろう。

歯の移植実験も行っている。これは十八世紀のイギリス